

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる	今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	評 価 結 果 (9) 月			
年 度 当 初								
評価項目	評価の具体項目	現状(令和3年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・89.4%の生徒が鳥商での高校生活に満足していると回答している。(学校生活アンケート) ・98%の生徒が正しい身だしなみを実践、93.4%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、マスク着用生活が長引き、大声、笑顔で挨拶する姿を見なくなって久しい。 ・保護者の85%が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」、90%が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・92.8%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校生活アンケート) ・88.9%の生徒が安心して安全な学校生活を送っていると回答。(学校生活アンケート) ・66.4%(70.1%)の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均3.46件(3.75件)、一人あたり1.15回(1.17回)(通院等による遅刻も含む()内は昨年度)。 ・QUアンケートを年間2回(3年生1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもとに、外部機関と連携しながら、配慮を要する生徒については個別に対応した。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ522件(昨年度450件)であった。	・商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入学して良かったと思っている生徒が90%以上である。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、場面に応じた行動をとっている。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、集団に貢献している生徒が90%以上である。 ・安心で安全な学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上である。	・鳥商で学びのスタイルを身につけさせることで、将来の社会生活に向けての自立を支援する。 ・学校内外での望ましい行動や態度が学校全体に好影響をもたらし、その結果地域社会からの信頼を得ることができると意識させる。 ・行事の実施に際し、生徒一人一人に鳥商生としての自覚を持っての行動を促し、学校の活性化に貢献することを意識させる。 ・学校生活アンケート、QUアンケートを引き続き実施することで生徒の現状を把握し、必要に応じて外部機関と連携する。	・1年生に対してビジネス基礎研修を4月に実施。日々の挨拶、身だしなみ、規律遵守が高い評価につながっていることを意識させた。真摯に取り組むことができ、目標は概ね達成した。 ・中学生体験入学やオープンスクールで、3年生を中心にした生徒が、鳥商生としての自覚と誇りを持ち、中学生やその保護者に対し、鳥商の説明を行った。 ・9月末までの遅刻統計は1日平均2.50(2.00)件、生徒一人あたり0.48(0.36)回。()内は昨年度同期。遅刻連絡カードを活用しての指導を継続している。 ・5月(全学年対象)、9月(1・2年生対象)にhyper-QUアンケートを実施し、その結果や日常の観察を基にして、教育相談員等と連携しながら気になる生徒への対応や支援を確実にを行っている。 ・必要に応じて、スクールソーシャルワーカーを通じて生徒の支援を行い、市(行政)の関係機関等と連携することで効果を上げている。 ・1学期2回の人権教育LHRでは、各学年の目標に沿って、人権問題に対する自らの意識や捉えを見つめ直すことを大切に取り組んでいる。	B	・いつも地域の方から『見られている』ことを自覚し、校内のみならず校外においても、きちんとした制服の着こなしで登校するよう、継続して指導していく。 ・体験入学や学校説明会、鳥商デパート等の機会に、中学生や中学校教員に鳥商について説明することを通して、鳥商生としての自覚と誇りを持つ。	
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。						B	・執行部を中心に学校行事や校則についての意見や現状の振り返りを行い、生徒の意見を学校の活性化に用いる。 ・教育相談員やスクールソーシャルワーカーと生徒情報を共有し、配慮を要する生徒についてはケース会議等により関係者で対応を検討し、引き続き必要に応じて外部機関と連携を行う。 ・10月以降実施予定の人権教育LHRや人権教育講演会においても、「安心して生活できる学校・クラス、そして社会とはをテーマとして、さまざまな人権課題について切り口を変えながら学ばせ、自らを振り返らせる。
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。	・ふるさとキャリア教育全体計画に基づく体験活動の多くが、コロナ禍により予定変更や延期を余儀なくされる中、第28回鳥商デパートは感染対策を講じた上で規模を縮小して実施できた。 ・講演会、マナー指導、面接指導、1・2年生合同進路学習デー等はオンラインを併用する等工夫して実施し、特に進路志望別ミニ講演会は生徒の進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞を述べた。3年生に対しての小論文指導、全職員での面接指導を実施。就職内定率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではスピーチ月間を設け、自分の意見を発表する経験を積ませた。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的に計画実施され、生徒が適切な進路選択を行っている。 ・各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が、学年に応じた形で身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率共に100%である。	・令和4年度ふるさとキャリア教育全体計画に従って事業・行事を実施する。 ・自己表現力育成プログラムを計画に沿って実施し、表現力を豊かにするための知識を増やす取組を進める。 ・3年生進学希望者への小論文指導、面接指導については、教職員で担当を決めて実施する。就職希望者については社会人による面接指導を継続して実施する。	・1年についてはLOCUS(マナビ社)による企業の課題研究事例から自己を見つめる総合探究プログラム)を昨年度から導入。10月7日に地域企業・事務所を予定通り訪問し、興味関心を引き出した。 ・2年生については東京への研修旅行が2年ぶりに実施された。受入が可能な学校を探し、志望別研修を実施し、進路意識が高まった。 ・3年生の就職希望者に対する青年会議所の面接指導を実施。就職試験に向けて意識の高揚やコミュニケーション能力の育成にもつながった。	B	・LOCUSについて、今後一連の活動を通してわかったことをまとめ、発表・共有していくことで、課題解決能力を高めていく。ただし、次年度、スケジュールや進め方、企業訪問の実施時期等について検討を行う。 ・青年会議所による3年生の面接指導は次年度も継続して実施する。	
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。	・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が121名(97名)であり取得率は65.5%(51.1%)、1級未取得者は0名(5名)。全員の1級取得は鳥商史上初めてのことである。なお、1級7種目取得者1名(1名)。商業経済検定全科目合格14名(5名)、情報処理検定1級プログラミング部門満点合格1名。()は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(8月)を実施。 ・1、2年生対象に4年制大学見学会(12月公立鳥取環境大学)を実施。	・検定実施日に合わせて検定週間を設定する。 ・長期休業期間中の補習、3年生進学希望者対象の平日補習を実施する。 ・4年制大学進学希望者対象の大学研修(鳥取大学、公立鳥取環境大学)への参加を勧める。 ・全学年対象の公務員セミナー、1年生4年制大学見学会を継続して実施する。	・臨時休業による学びの遅れを取り戻すため、簿記検定週間に6月に設け、上位級取得に向け、学校全体で取り組んだ。その成果もあり、9月末時点での3年生の全商1級3種目以上取得者数は61名(81名)、2種目合格者が44(71)名であった。()内は昨年同期。 ・3年生の進学希望者(大学、看護系)を対象に模擬試験を実施、4年制大学進学希望者に鳥取大学入学センター主催の研修会、県立図書館主催「ビジネスプラン作成講座」研修会への参加を促し、進路への意識を高めることにつながった。 ・全学年で夏季休業期間中に補習を実施し、延べ204人が参加(昨年度264人)。公務員志望者(全学年)へは7月27日(水)～29日(金)に外部の方に講師をお願いし、校内で公務員セミナーを実施した。参加者はそれぞれ熱心に取り組んだ。	・6月の簿記検定週間を次年度からは年間計画に組み込み、1月の簿記・情報処理検定週間とともに学習時間を確保しながら、合格へ向けての意識づけと学習内容の定着に向けて取り組んでいく。 ・1年生の大学進学希望者を対象に12月に大学見学会を実施する。(公立鳥取環境大学)またこれ以外にも、大学進学希望者に対する意識づけや学びの機会を設ける。 ・就職内定者を対象に、外部講師を招いてビジネスマナーに関する講習会を実施する。 ・1～2月の検定試験に向け、検定週間および検定補習を計画して実施し、2・3年生は1級取得の複数取得を目標に指導を継続する。	B		
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【健康に留意する】 ・基本的生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送っている。	・毎朝食摂取91.6%、日ごから運動を心掛けている生徒77.1%と健康的な生活を心掛けている生徒が多い。85.3%の生徒は生活リズムが確立され授業に集中できていると回答しているが、就寝時間が夜1時以降になることがよくあると答えている生徒が46.6%あり、就寝時間が遅いことが常態化している。(学校生活アンケート) ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・「ケガ・故障が多い」という健康課題の解決のため「ケガをしないうる体づくり」をテーマに、理学療法士による健康教育LHRを9月に実施。 ・体育祭(7月)での商高体操、集団行動と全校強歩大会(10月)を実施。	・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけ、体力向上に努めている。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が85%以上である。 ・商業科目、普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。 ・全生徒が部活動に加入し、学習との両立に努めている。	・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・けがを予防する意識付けのための健康教育LHRを実施する。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)を実施する。	・前期に新型コロナウイルス感染症による臨時休業が2回あった(4月、7月)。日々の健康観察・検温に加えて手指消毒や換気ルールの徹底を行い、感染防止に努め、校内での感染は落ち着いた。 ・感染拡大状況に応じて行事の実施方法や日程の変更を行い、できるだけ行事が中止とならないようにした。(1、2年遠足⇒3日日程変更したが中止 文化祭⇒日程変更 全校集会⇒オンライン) ・長期休業明けにアンケートを実施し悩みを持つ生徒への相談体制が取れるようにしており、実際に担任に相談をするきっかけとなっている(春休み明け、夏休み明けに実施)。 ・健康教育LHR(けがを予防する体づくり)は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、9月1日に3年生のみの実施となった。3年間の実践をまとめ、11月に予定している学校保健委員会へ報告する予定だが、生徒の体づくりに対する意識は向上した。 ・体育祭は熱中症予防のため半日開催したが、集中で取り組めた。なにより、生徒が生き生きと活動できているため、引き続き続けていきたい。反対に、保健室や相談室に来室する生徒の様子や欠席がちな生徒の様子から、「生活習慣の乱れが学校生活への適応に影響している」ことが窺える。	B	・新型コロナウイルス感染症予防のための各種取組について、生徒が自分の行動が大切であると認識できるよう、引き続き導いていく。 ・行事が中止とならないよう、臨機応変に行事日程の見直しや実施方法の変更を行う。 ・「安心・安全な学校生活を送ることができる」ように、引き続き長期休業明けアンケートを実施する等、生徒の「心のケア」に努めている。 ・健康教育LHRは、来年度から3年間「食育」を軸に計画している。睡眠時間を確保し朝食を食べることで「心身の健康を整える」ことができ、学校生活への適応ができることを学んでいく予定である。	
	【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取り組む、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年166分(140分)、2年168分(145分)、3年180分(129分)。10月平常時の自宅学習時間は1年50.1分(44.9分)、2年29.6分(50.6分)、3年35.6分(44.9分)であった。()は昨年同期。 ・オンラインツールの活用により生徒の学習習慣が変容しつつある。 ・2月にエキスパート教員公開授業(国語)を実施。	・部活動がバランスのとれた人格形成の場になっており、それぞれが自ら設定した目標に向けての努力がなされている。 ・各部活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の一部活動が10以上である。	・定期テストや検定前には、担任、教科担任、部活動の顧問が取って対策に取り組んでいる。 ・1学期末考査前1週間の自宅学習時間を調査。1日平均で1年166分⇒152分、2年158分⇒157分、3年180分⇒134分と、減少傾向である。(前年度同時期からの推移) ・前期授業評価アンケート結果によると、平均すると9割以上の生徒が集中して授業を受けており、必要に応じて予習・復習に取り組んでいると回答している。 ・コロナ感染及び異常気象による臨時休業時にリモート授業を実施した。リモート授業は参加しやすい一方で、授業内容の理解については限定的である。 ・コロナ感染関連による出席停止の生徒に対して、学習保障のためリモート授業を極力実施し、生徒の安心につながっている。 ・1年生に観点別評価が今年度よりひとまず円滑に導入された。	・学校全体で年間2回の自宅学習時間調査を継続実施する。 ・教科内での公開授業、相互授業参観を促進し、授業力向上を図る。	・1学期末考査前1週間の自宅学習時間を調査。1日平均で1年166分⇒152分、2年158分⇒157分、3年180分⇒134分と、減少傾向である。(前年度同時期からの推移) ・前期授業評価アンケート結果によると、平均すると9割以上の生徒が集中して授業を受けており、必要に応じて予習・復習に取り組んでいると回答している。 ・コロナ感染及び異常気象による臨時休業時にリモート授業を実施した。リモート授業は参加しやすい一方で、授業内容の理解については限定的である。 ・コロナ感染関連による出席停止の生徒に対して、学習保障のためリモート授業を極力実施し、生徒の安心につながっている。 ・1年生に観点別評価が今年度よりひとまず円滑に導入された。	B	・普段から授業を大切にさせ、集中して授業に臨ませる。 ・フォームを活用した課題提出等、生徒が受け身にならない授業の工夫を日頃から実施する。
	【部活動に励む】 ・すべての生徒が部活動に加入し、自ら設定した目標達成への努力を積み重ねることで、人間的に成長している。	・部活動の加入率は99.4%と高いが、あまり活動できていない生徒もあり、活動率も調べてみる必要がある。コロナ禍による大会の中止がある中で、地道に努力を重ねて好成績を収めた部もある。	・鳥取県の部活動方針に沿って活動時間を設定し、学習との両立を進める。 ・部活動に全員が加入するよう、部顧問がそれぞれ適切な部活動経営を創意工夫して行う。	・地域の新型コロナウイルス感染症の流行が収まらないため、制限無く部活動ができる環境にはなっていないが、各部署で練習方法等を工夫している。 ・勉強と部活動の両立ができるよう担任と顧問の先生が連携をとって取り組んでいる。 ・前期授業評価アンケートで28%の生徒が部活動と学習の両立ができていないと回答した。 ・全国大会出場の部活動は、現在5部である。	・鳥取県の部活動方針に沿って活動時間を設定し、学習との両立を進める。 ・部活動に全員が加入するよう、部顧問がそれぞれ適切な部活動経営を創意工夫して行う。	・地域の新型コロナウイルス感染症の流行が収まらないため、制限無く部活動ができる環境にはなっていないが、各部署で練習方法等を工夫している。 ・勉強と部活動の両立ができるよう担任と顧問の先生が連携をとって取り組んでいる。 ・前期授業評価アンケートで28%の生徒が部活動と学習の両立ができていないと回答した。 ・全国大会出場の部活動は、現在5部である。	B	・「部活動と学習の両立ができていない生徒を減らす」ことも念頭に置き、より合理的な方法で練習するなど、今以上に工夫して、全国大会や中国大会出場などを目指す。
	4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制服の着こなし、丁寧な言葉遣いができる。 ・学校運営協議会を3回実施。産業界、地域、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・コロナ禍の影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。	・定期的な身だしなみ指導に加え、学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等の指導を行った。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手に配慮した言動が取れている。 ・学校運営協議会を3回実施。産業界、地域、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・コロナ禍の影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。	・場に応じた適切な制服の着こなし、挨拶、言葉遣いができる。 ・第29回鳥商デパートにおいて、鳥商で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用することができる。 ・図書などを利用しての情報収集を適切に行っている。 ・グローバル社会を実感できるような異文化に触れる機会を年に1度は持っている。 ・全商英語検定の取得状況が目標値を上回っている。	・定期的な身だしなみ指導だけでなく、学校生活全般で適切な着こなし、挨拶、言葉遣いの指導を行う。 ・学校運営協議会で意見や提言をいただく。 ・全校生徒が鳥商デパートの運営に関わることで実践力を高めることができるように仕掛けをしていく。 ・図書などを利用しての情報収集を適切に行っている。 ・鳥商手帳の活用方法を考える。 ・図書館の効果的な利用を工夫する。	・ほとんどの生徒が挨拶できており、チャイム前に行動ができるようになってきているが、一部の生徒が制服を着崩して着用している。 ・第1回学校運営協議会で、部活動を通して身につけて欲しい力、鳥商ならではの特色を生かした学び、分かりやすい目標値の設定などについて提言をいただき、来年度に向けての検討をすすめている。	B	・いつも『見られていること』を意識し、緊張感を持って取り組むようにしていく。 ・第2回、第3回学校運営協議会等で、引き続き意見や提言をいただき、その実現に努める。
【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。		・第28回鳥商デパートを生徒の家族と学校関係者に限定して開催し、全学年生徒が参加した。売上5,321,734円、来場者数1,455人であったが、高い客単価が売り上げアップの要因となった。2月18日に成果発表会を開き協力企業、学校運営協議会委員に講演をいただく予定だったが、コロナ禍のため発表会は中止。発表動画を在校生に見せる形とした。 ・2月末時点での図書貸し出し冊数は延べ4,172冊(3,520冊)。一人あたりにすると8.3冊(6.5冊)と昨年度と比べて大きく増加した。授業での利用時間数は307時間(44.4時間)であった。()は昨年同期。	・全校生徒が鳥商デパートの運営に関わることで実践力を高めることができるように仕掛けをしていく。 ・図書などを利用しての情報収集を適切に行っている。 ・鳥商手帳の活用方法を考える。 ・図書館の効果的な利用を工夫する。	・第29回鳥商デパート経営委員会を発足させ、9月9日(金)に取締役会、10月3日(月)に設立総会を開催し、実施に向けて順調に準備を進めている。 ・年次が進むごとに、鳥商手帳を活用している生徒が増えている。 ・9月末時点での生徒の図書貸し出し冊数は延べ1,341冊。1人あたりの2.9冊(昨年度同期5.1冊)で、2、3年の利用者が減少している。授業での利用時間数は84時間(昨年度同期155時間)。原因としては、臨時休業、生徒数の減少、タブレット所有数の増加などが考えられる。	・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。	・第29回鳥商デパート経営委員会を発足させ、9月9日(金)に取締役会、10月3日(月)に設立総会を開催し、実施に向けて順調に準備を進めている。 ・年次が進むごとに、鳥商手帳を活用している生徒が増えている。 ・9月末時点での生徒の図書貸し出し冊数は延べ1,341冊。1人あたりの2.9冊(昨年度同期5.1冊)で、2、3年の利用者が減少している。授業での利用時間数は84時間(昨年度同期155時間)。原因としては、臨時休業、生徒数の減少、タブレット所有数の増加などが考えられる。	B	・11月のマナー講習会、成果発表会を鳥商デパート経営委員会の生徒主体で運営する。 ・低学年から学校生活を通じて、鳥商手帳を活用できるような仕組みを作り、指導を行う。 ・新聞リーダーの使用等を等して社会に目を向けさせ、図書館利用推進へとつなげる手立てとする。
【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身についている。 ・グローバル感覚、英語運用能力が向上している。		・アメリカ合衆国バーモント州エセックス高校とのオンライン交流を4月より8回実施し、毎回約20名が参加した。 ・全商英語検定1級取得者7名(7名)、3級合格率90%(83%)であった。()は昨年同期。 ・1年生コミュニケーション英語Ⅰで習熟度別授業を実施。	・アメリカ合衆国バーモント州エセックス高校との交流を推進する。 ・全商英検1級、実用英語検定の準2級以上の受検を勧め、生徒の英語運用能力を向上させる。	・アメリカ合衆国バーモント州エセックス高校との交流を推進する。 ・全商英検1級、実用英語検定の準2級以上の受検を勧め、生徒の英語運用能力を向上させる。	・エセックス高校との月1回のオンライン交流は継続できており、夏休みを挟み秋から再開の予定である。 ・9月実施の全商英検合格者数は、1級8人(5人)、2級17人(25人)、3級116人(157人)と、全体で46名減少している。()内の数字は昨年度同時期。 ・1年生英語コミュニケーションⅠで習熟度別授業を実施し、生徒の学習到達度に合わせて自己表現できるように工夫している。 ・モンゴル・ボルノール町中学校とのオンライン交流を行い、今後も継続して交流を行うこととなった。	・エセックス高校とオンライン交流を継続しながら、多くの生徒が関われるよう幅広く生徒に声掛けをしていく。 ・生徒が外国人と交流する機会を作り、実施において支援をしていく。 ・全商英検受検者に対する補習の実施や、授業中での基礎学力向上対策を充実させる。	C	
5. 業務改善の取組		校務分掌・任務分担の見直しを実施する。	・業務時間外は留守番電話での対応とし、職員の負担が軽減された。 ・業務アシスタント、特別教育支援員の配置により、当該分掌職員の負担が軽減された。 ・校内掲示板やGoogleClassroomの活用、会議等のオンライン配信により、多様な勤務形態の職員も含めての効率的な情報共有ができた。	・時間外業務月45時間以上勤務者をゼロにする。	・部活動方針の徹底と、部活動の月別計画、実績表を活用して、業務の見直しを行う。 ・対外業務停止日を設定する(5月2日、夏期休業中)。 ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。	・年度途中でも躊躇せず、必要に応じて校務分掌、任務分担の見直しを行っているが、一部の業務の偏りは解消できず、時間外業務が増えている。 ・各種アンケート類はGoogleFormsで実施できており、集計等の時間が短縮された。		・引き続き、状況を見ながら分担の見直しを行っていく。
	長時間勤務者を解消する。	・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・月当たりの時間外業務は令和2年度比で11%増。時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。		・部活動の月別計画、実績表について、丁寧に確認し、必要に応じ顧問に指導をしており、部活動での時間外業務は多くない。 ・勤務の割振り変更等で時間外業務を極力減らすようになっているが、昨年度に比べて時間外業務は12%増である。また、時間外業務月45時間以上の職員が約63人で、昨年度に比べて17人増加している。(4～9月)	・引き続き部活動の月別計画、実績表を利用して、業務の確認を行う。 ・部活動以外の時間外業務について中身を精査し、業務の割振りの見直し、業務の削減を検討する。	C		
		評価基準 A=十分達成 B=概ね達成 C=欠乏の兆し D=まだ不十分 E=目標・方策の見直し 【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】						